

福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年6月1日現在
(専技情報より抜粋)

◇早生水稲(夢つくし、コシヒカリ)◇

田植え後、高温で経過したため生育は順調です。暖冬の影響で、一部地域ではスクミリンゴガイによる食害が発生しています。

4月下旬植は田植え後40日頃に有効茎数が確保され、6月5日頃に中干し開始時期となる見込みです。中干しは有効茎確保を確認して開始しましょう。

スクミリンゴガイの発生が多い場合は、田植え後3週間程度は浅水管理を実施しましょう。雑草が多い場合には、中後期除草対策を実施しましょう。

◇普通期水稲◇(夢つくし、元気つくし、ヒルカリなど)

田植えは、山ろく地では5月中旬から開始です。麦の作付けがない平坦地では5月下旬から開始です。好天で経過したため、苗質は良く、田植え後の活着も良好です。本年は、ウンカ類の飛来が平年より3週間程度早く5月18日に確認しました。平坦地の田植えは、「夢つくし」が6月上中旬、「元気つくし」が6月中下旬、「ヒノヒカリ」が6月下旬、「実りつくし」が6月中旬にピークとなる見込みです。育苗では、出芽期間中に高温とならないように、温度管理に注意しましょう。田植え後は浅水管理を徹底し、活着促進と初期生育の確保を図りましょう。ウンカ類の飛来時期が早いいため防除対策を徹底しましょう。

◇麦類◇

大麦・裸麦の収穫は、5月27日頃までに終了しました。小麦の収穫は、「シロガネコムギ」で5月23日頃から、「ラー麦」で5月25日頃から開始です。穂数は平年並み～やや多く、登熟は良好です。収量は、平年並み～やや多い見込みです。収穫は、適期に速やかに行いましょう。特に穂発芽しやすい品種(シカゴホムギ、ミネカサ)は刈り遅れにならないよう注意しましょう。ほ場への有機物の還元のため、麦わらはすき込みましょう。

◇施設キュウリ

促成および半促成作型ともに出荷終盤であり、6月末～7月上旬に終了見込みです。3月以降の気温の変化により出荷の山谷が多いです。5月連休の出荷ピークと気温の上昇が重なり、草勢は低下しています。

草勢低下に伴いべと病、褐斑病が発生しているが、全体的に病害の発生は少なく、アザミウマ類など害虫の発生も例年に比べて少ないです。センチュウの発生は昨年よりやや多いです。

草勢維持と収量確保のため、6月末まで継続してかん水、施肥を行います。6月上旬にアザミウマ類のハウス外からの飛び込みが増えるため対策を講じましょう。収穫終了後はハウスを閉め込み、アザミウマ類やコナジラミ類を死滅させるとともに、センチュウ対策として陽熱消毒を行いましょう。

◇ナシ

加温ハウス・トンネル「幸水」は、発芽不良が一部発生したものの、結実・肥大は概ね平年並みです。加温ハウスは、7月上旬から出荷の見込みです。露地「幸水」「豊水」は、開花のバラつきが大きく、4月上中旬の交配期の低温により、結実・肥大はやや悪いです。晩生種の「新興」「新高」は、低温遭遇時間の遅延により、開花の遅れやバラつき、一部結実不良が発生しています。病害虫の発生は、開花期の天候不順により、平年より黒星病がやや多いです。

適正着果数への仕上げ摘果、誘引・摘心等の新梢管理を徹底し、果実品質・肥大の向上および次年度の花芽確保に努めましょう。黒星病の後期感染時期を迎えているため病害果の除去等の対策を徹底しましょう。

◇イチジク◇

加温ハウスの「蓬菜柿」及び「とよみつひめ」の出荷は前年よりやや早く、それぞれ4月中旬、5月中旬より開始です。果実品質は概ね良好です。無加温ハウスの「とよみつひめ」の展葉は9～12枚前後で果実肥大期、露地は7～8枚前後で着果期を迎えています。露地の「とよみつひめ」は、3月の高温の影響で前年並みに発芽が前進化しました。その後の生育は、4月の低温により一時停滞しましたが、5月以降の天候回復により、現在前年並みの展葉5～6枚程度で推移しています。

加温ハウスは、適期収穫を徹底しましょう。乾燥が続く場合は、ハダニ類、アザミウマ類の対策を徹底しましょう。施設内の温度上昇による成熟異常果の防止のため、水管理、換気、樹勢に注意しましょう。梅雨期を迎えるため、露地では、黒葉枯病や疫病対策を徹底しましょう。

◇施設ギク◇

秋ギク「神馬」の出荷は5月下旬で終了しました。夏秋ギクは、「フローラル優香」が5月中旬から、「精の一世」が5月下旬から出荷開始です。

新型コロナウイルス感染症の影響により、3月下旬以降は低単価が続いたため、前年比91%、過去5年比95%まで下がりました。白さび病の発生はやや多く、ハダニ類、アザミウマ類の発生は昨年と比べ少ないです。

施設内の温度上昇による葉焼け防止のため、水管理や換気に注意しましょう。ウイルス病の疑いがある株は抜き取り、感染拡大を防止しましょう。秋ギク親株の数を十分確保し、ウイルス病の感染が疑われる株、生育が悪い株や害虫（アザミウマ類）の吸汁痕の多い株から採穂しないようにしましょう。

◇畜産◇

豚肉枝価格は、消費者の外出自粛による買いだめや、経済の悪化による低価格志向により需要が増加し、前年比111%、過去5年比113%と20ヵ月ぶりに600円台の相場となりました。

鶏卵価格は、家庭用需要が高めで推移しているものの、業務用（外食産業、ホテル関連、贈答用菓子、行楽・観光）需要が大幅に減少しており、過去5年平均比86%と低い水準で推移しています。

湿度も上昇してくるため、換気送風等暑熱対策を徹底しましょう。農場の衛生管理を徹底しましょう。